

安全データシート SDS

1. 製品及び会社情報

製品名 光硬化性樹脂材料 SP-Wash
会社名 有限会社 サット・システムズ
住所 高知県南国市岡豊町笠ノ川 1052-1
電話番号 088-802-8175

2. 危険有害性の要約

この製品は (EC) No. 1272/2008 (CLP) に従って、以下のハザードカテゴリに分類されます。

・ 物理化学的危険性	
引火性液体	区分外
・ 人健康有害性	
急性毒性（経口）	区分外
急性毒性（経皮）	区分 4
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉塵）	分類できない
急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分 2
目に対する重篤な損傷性/目刺激性	区分 1
呼吸器感受性	分類できない
皮膚感受性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
標的臓器全身毒性（単回暴露）	分類できない
標的臓器全身毒性（反復暴露）	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境有害性	
水性環境有害性（急性）	分類できない
水性環境有害性（慢性）	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 警告

注意書き

安全対策

- 使用前に 安全データシート SDS を入手すること。
- すべての注意書きを読み、理解するまで取り扱わないこと。
- 必要に応じて個人用保護具を使用すること。
- ミストの吸入を避けること。
- 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- 環境への放出を避けること。

応急処置

- 目に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は、外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

保管

- 容器を密閉し、換気の良い冷暗所で保管すること。

廃棄

- 内容物容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分 混合物

物質名	成分(%)	CAS No.
ビスフェノール A エポキシ ジアクリレート	45	55818-57-0
4-アクリロイルモルホリン	10	5117-12-4
ポリエチレングリコール200 ジアクリレート	10	26570-48-9
TMP3EOTA	12	28961-43-5
TMP15EOTA	6	28961-43-5
CTFA	16	126-00-1
TPO	5	75980-60-8
ポリプロピレングリコール	0.30	25322-69-4

4. 応急処置

吸入した場合	清浄な空気のある場所に移動し、安静にする。 異常がある場合には、医師の診察を受ける。
皮膚に付着した場合	石鹼または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。 皮膚炎等の異常がある場合には、医師の診察を受ける。
目に入った場合	直ちに大量の清浄な流水で3分以上洗う。コンタクトは取外して洗うこと。 異常がある場合には、医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	水で口の中をよく洗浄する。安静にし、直ちに医師の診察を受ける。 意識のない場合は、絶対に吐かせてはならない。
応急措置をする者の保護	救助者は保護手袋や保護眼鏡などの保護具を着用し、衣類や手につかないように注意を払うこと。

5. 火災時の措置

消化剤	泡沫、粉末、炭酸ガス、散水
使ってはならない消化剤	
火災時の特定の危険有害性	火災によって刺激性、腐食性または毒性のガスを発生する恐れがある。
消火方法	適切な保護具を着用する。 可燃性ではありません。周囲に可燃性物質がある場合は離して保管。 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火器や乾燥砂を用いる。 大規模火災の際には泡消火剤等を用いて空気を遮断することが有効である。
消火を行う者の保護	消火の際は、適切な空気呼吸器。化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	直ちに、すべての芳香に適切な距離の漏洩区域として隔離する。 関係者以外は近づけない。 作業者は適切な保護具を着用する。
環境に対する注意事項	密閉された場所は換気をする。 河川等に排出され、環境中へ影響を与えないよう注意する。 環境中に放出してはならない。
回収、中和	乾燥砂、土等に吸収させて、密閉できる容器に回収する。 残分はぼろ布などで拭いて、産業廃棄物として適切に処理する。
二次災害の防止策	付近の着火元、高温体および可燃物を速やかに取り除く。着火した場合に備えて、粉末または消化器を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気、全体換気 安全取扱い注意事項

「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気、換気を行う。
粉塵またはミストを吸入しないこと。
取扱い後、手や顔をよく洗い、うがいをする事。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
煙、ガス、蒸気、ミストの吸入を避けること。
過去にアレルギー症状を経験している人は取扱わないこと。
環境への放出を避けること。

接触回避

「10、安定性及び反応性」を参照

保管

技術的対策

混触禁止物質

「10、安定性及び反応性」を参照

強酸化剤、強酸との接触を避ける。

保管条件

容器を密閉して換気の良いところで保管すること。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない

許容濃度

設定されていない

設備対策

密閉された装置、機器または局所排気装置を設置した場所で取扱いを行う。

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄の為の設備を設ける。

取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれなような設備とする。

液体の輸送、汲み取り、攪拌などの装置についてはアースを取るよう設備する。

保護具

呼吸器の保護

必要により防毒マスク（有機ガス用）

手の保護

耐油性（不浸透性）の手袋

目の保護

保護眼鏡または安全ゴーグル

皮膚および身体保護具

長靴、前掛け、保護衣

衛生対策

取扱い後、手、顔をよく洗い、うがいをする事。

汚染された作業易は、作業場から出さないこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

9. 物理的および化学的性質

外観

SP-Wash : 液状（白色、灰色、黒色）

臭い

わずかに特異臭

PH

7 前後

融点、凝固点

60℃

沸点、初留点及び沸騰範囲

140℃

引火点

データなし

爆発範囲

データなし

蒸気圧

データなし

蒸気密度

データなし

比重（相対密度）

約 1

溶解性

水に不溶性、ベンゼン、アルコール、エーテルおよび他の有機溶媒に可溶

自然発火温度

450℃

分解温度

250℃

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の条件下では安定
反応性	強酸、強アルカリ、酸化剤、過酸化物と混合した時発熱を伴って反応する。
避けるべき条件	加熱、高温
混触危険物質	強い酸化物、酸およびアルカリ
危険有害な分解生成物	通常の保管使用条件下以外では使用しないでください。

11. 有害性情報

製品としての情報	
急性毒性	致死量
急性毒性（経口）	区分外
急性毒性（経皮）	区分 4
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
目に対する重篤な損傷、刺激性	区分 1
呼吸器感受性	分類できない
皮膚感受性	区分 2
変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性（単回）	分類できない
特定標的臓器毒性（反復）	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない

12. 環境影響毒性

生態毒性	
水生環境有害性（急性）	情報なし
水生環境有害性（慢性）	情報なし
残留性/分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	<p>特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。</p> <p>取り扱いおよび保管上の注意の項の記載によるほか、有害性液体に関する一般的な注意事項に従うこと。</p> <p>水に流さず産業廃棄物として産業廃棄物認定業者に委託処理すること。</p> <p>廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。</p> <p>他の物質と混合して廃棄すると、化学反応や発火をする恐れがあるため、事前に安全性を十分に確認すること。</p>
汚染容器及び包装	<p>容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p> <p>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。</p>

14. 輸送上の注意

容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。	
陸上輸送	消防法、労働安全衛生法に定められた輸送方法に従うこと。
海上輸送	船舶安全法に定めるところに従うこと。
航空輸送	空法に定めるところに従うこと。
危険物輸送及び貯蔵規	非該当
国連分類/連番号	非該当 国連の基準で評価して、危険物に該当しない。
容器等級	非該当
適応法令	消防法 第 4 類第 3 石油類非水溶性液体

労働安全衛生法	非該当
毒物劇物取締法	非該当
水質汚濁防止法	非該当
海洋汚染防止法	非該当
船舶安全法	非該当
PRTR 法	非該当
その他	

15. その他の情報

参考文献

既存化学物質安全性データ
産業衛生学会勧告（2007 日化協「緊急時応急措置指針」
記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに元随手作成して
おりますが、いかなる補償をなすものでもありません。
取り扱いには十分注意してください。